

高洲地区社協だより

第64号

平成29年9月20日発行 事務局 高洲地区交流センター Tel 635-1458 Fax 634-0278

過去の地震を教訓に対策を

社協役員 県地震防災センターを視察

高洲地区社会福祉協議会役員は、7月15日(土)21名で静岡県地震防災センターを視察しました。防災センターでは、地震・津波についての説明を受け、地震体験コーナーでは椅子に座って震度6以上の地震を数人が体験しました。阪神・淡路大



津波の映像を見ながら研修を行う社協役員

大震災(1995年1月17日発生、死者6,434人、行方不明者3人、負傷者43,792人)からの教訓として次の三つをあげています。

1. 建物の耐震化と家具等の転倒防止の重要性

死者の80%以上は、建物の崩壊等によるもので、負傷者の50%近くは、家具の転倒によるものです。

2. 被害者をただちに助けることの重要性

死者のうち発生から15分間で約60%の方が、また、約6時間で約86%の方が亡くなっている。いざという時のために、地域の

防災訓練等に積極的に参加し、「自らの命は自ら守る」「自らの地域は皆で守る」の意識を持ち、お互いに協力しあうこと。

3. 自主防災活動の重要性

大地震の際は、行政による支援がすぐには期待できない。阪神・淡路大震災で被害者の救出・救助にあたったのは、80%近くが近所や家族の方だった。災害に強い地域づくりが重要です。

今年も大道芸人“あまる”がやってきました

迫力満点の芸が続出！！

「高洲三世代ふれあいイベント」が、去る7月22日(土)高洲地区交流センターで開催されました。

大道芸人“あまる”が、チョンマゲ姿で登場。まずは、バルーンアートで子供たちの心をワシズカミ。つづいて皿回し・ボールを使ったジャグリング・大きなパチンコ玉が体をグルグル・大きなけん玉。



迫力満点のあまるのバランス芸

観客のお父さんが輪投げの的になったり。観客の子供が持ったフーセンに針を刺しても割れません。そしてバランス芸。

後半は、おやゆび姫や一寸ぼうし、かいじゅうが出てくるコメディタッチの創作人形劇です。かいじゅうが出てきた時には、迫力に泣き出す子供が続出でした。

観客も参加する、楽しい芸が盛りだくさんの高洲三世代ふれあいイベントでした。

観客の子供も、刺しても割れないフーセンの演技するままの



小学生の「こども福祉体験講座」

お年寄りの気持ちになってみたよ！

高洲地区社会福祉協議会は、恒例の「こども福祉体験講座」を、8月4日（金）に開催しました。参加者は、高洲小学校、高洲南小学校（4年生～6年生）の児童29名に、民生児童委員もサポートして参加しました。



高齢者擬似体験で、階段昇降をする参加者

れていることを学びました。

次に、デイサービス室に案内され、利用者の方々と合流し、自己紹介、体操、テーブルを囲んでのゲーム等で和気あいあいと時間のたつのも忘れ、楽しいひとときをすごしました。

最後に、子どもたち全員がひとりずつ順番に車椅子に乗り、施設の送迎バスへの乗降を体験しました。

今回の体験を通して子供たちが思いやりの心、やさしい心を再認識することができたら、すばらしい夏休みの一ページになると思います。

午前中は高洲地区交流センターで、「高齢者擬似体験」を行いました。加齢とともに様々な行動に少しずつ支障が出てきてしまう毎日の生活の中で、どのように不便を感じるのかを知るために、「おとしより体験道具」を身にまとい、階段の昇降、書類の記入、自販機で飲みものを購入。ペットボトルから紙コップへジュースを入れて飲む。あめ玉を包みから開けて食べてみる等の行動を体験してみました。

午後は擬似体験を通して感じたことを心に秘めて、特別養護老人ホーム（愛華の郷）へバスで移動しました。まず、施設内を見学し、職員の方から説明を聞き、利用者が安心して24時間過ごせるように工夫さ



車椅子で福祉車両に乗降体験する小学生